

2020/8/17

書直し版（うとQ ブログ 元気のなさの正体 その6） 書庫版



昨日猛暑。日の陰り始めた夕間暮れ、近くの遊歩道で、とても小さな蜥蜴に出くわしました。あまりに小さいので初めは気づきませんでしたが、何やら「ちらっ」と動いて気がして、足を止めてよく見てみると、それがちいちゃな蜥蜴君でした。

「わっ、なっつかしい!!」

蜥蜴で思い出すのは、何ととっても「イモリの黒焼き、惚れ薬」です。

小学生の頃大好きな女の子がいて、学校の帰り道、男友達とお互いに好きな子と自分の今後の「恋の行方」を占う「あきすとぜねこ」をしながら帰ったものですが、それをしながらも、どうやったら好きな子とラブラブになれるのか日々真剣に検討を繰り返しておりました。流石に親や先生には聞けないし、友達もあてにならない。

で、仕方なく近所の爺さまに聞きに行った処

「そりゃあお前、何たってイモリの黒焼きだわ」

と即座に一発回答。

何でもイモリを黒焼きにして、それを砕いた粉末を好きな子に飲ませるとの事。

それからというもの随分とイモリを探す毎日を送った記憶がありました。

今時、そんな事をしたら動物愛護協会、保健所からは大目玉、警察署からはオーバーストッキングで逮捕状でも出そうですが、当時は悪ガキのよくある「いたずら」位のことで、別にどうって事なかったのです。

それにとどまらず、中学でも、相変わらず誰が好きかとか、誰かが持ち込んだエロネタでワーワー、キャーキャー、やっておりました。大らかなものです。

ところが昨今では、猥談ダメ、下ネタダメ、エロ話ダメの「健全警察」「品行方正警察」全盛期。あれダメ、これダメ、みんなダメ。

しかし思うにそれは、全く逆効果のような気がします。

押さえつけるから下にもぐるのです。

「行儀のよさが、礼儀を殺す」です。

こんなもの、大っぴらにさせておけば、かえってコマメにガス抜きができて犯罪も減るでしょうし、みんなの元気も出易くなります。

それをやらないと、ガスが溜まりに溜まって一挙にレバノンの大爆発の如きが起こる可能性がありますし、抑圧が長く続くと元気も反発力を失って圧死又は窒息死してしまいます。そうならないためにはコマメなガス抜きが不可欠です。

因みに、外国人ばかりの当店の国際交流開始原点は「エロ・ジョーク」からでした。

エロ話は世界共通コミュニケーション開始言語なのです。

相手や周囲を不快にさせない範囲で、どんどんやればいいとおもいます。

元気を取り戻す為には。